

国語科成果報告書

習得・活用・探求という学びの過程の中で、各教科の特性に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できている。

(中央審議会「答申」抜粋)

★国語科における見方・考え方

対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方に着目して捉えたり、問い直したりして、言葉への自覚を高めている。

★国語科における深い学びに到達した姿

「読むこと」における深い学び

・情報の精査

言葉にこだわりをもって読み、読み取ったこと（題名、人物、場面、心情）の関係性をより多く発見することができる。

・考えの形成

文中の言葉を根拠にしたり、自信の経験とからめたりしながら、考えたことを自分の言葉でまとめることができる。

・考えの共有・再構築

自分と友達の意見を比較・統合しながら、自分の考えを再構築することができる。

★児童像実現のために効果的だった手立て

①思考ツールを活用した考えの整理

→クラゲチャートを活用することで、意見と理由、例を結びつけて考えることができた

(5年「雪わたり」)

→フィッシュボーン、熊手チャートを活用することで、多角的な視点で身のまわりの課題・問題を見つづけることができた。(5年「提案文を書こう」)

②到達点の明確化(5年「白神山地からの提言」、5年「提案文を書こう」)

→「意見と理由が書いてあればB、そこに根拠となる資料が加わればA、教科書の～という表現が使えていればA+」のように明示したことで、児童はその到達点に向かって学ぶ姿が見られた。

③ムーブノート「深い学びボタン」を活用した考えの再構築(5年「いつか、大切なところ」)

→友達の意見を見る際の視点として提示したことで、自分の考えの変容を自覚できるようになった児童が増えた。

④パワーポイントの共同編集による思考の可視化

→すばやい意見の共有を可能にした。また、書き始められない児童はほかの児童のスライドを参考に考え始めることができた。

★成果と課題

- ①思考ツールや共同編集機能などを学習内容に合わせて効果的に活用できた。
 - ②深い学びを実感するには、多様な意見が出されるような学習課題を設定することが必要であることが分かった。
 - ③ICT を活用することは大切ではあるが、1・2年生ではノート指導がまだ必要であることが分かった。
- ❶多様な意見が出るような学習課題を設定することが難しかった。
 - ❷「深い学びに達した」という手ごたえを感じる事が少なかった。
 - ❸国語における個別最適な学びをどう実現すればよいかわからなかった。

★個別最適な学びの実現に向けた実践

①単元計画の工夫（成果物の選択）

→単元の前半で知識を確実に身につけられるようにした。単元の後半ではゴールを定め、児童が選択した活動を行えるようにした。（5年「雪わたり」）

②学習の道筋の複線化

→下書きの種類をA、B、2種類用意し、①AB 両方使って意見文を書く②A のみ使って意見文を書く。③B のみ使って意見文を書く、という3つのルートを用意して自分に合った方法を選択させた。そうすることで自分の力に合った方法を選ぶことができた。

- ・考えをまとめる際に、タブレット端末を使うか紙に鉛筆で書くか選択させた。

★学びの自律化の実現に向けた実践

→はじめはどういうものかわからなかったが、調べたり資料を読んだりした結果、学びの自律化に近い実践もあった。（結果的に）

【学びの自律化に必要なキーワード】（経団連より）

- ・個々人の興味や習熟度に応じて最適化された学び
- ・いつでもどこでもどの環境でもつながれる学び
- ・多様な価値観が交わり多様な選択肢から選べる学び
- ・好奇心くすぐる観察と探究により価値を協創する学び

「資料を使って発表しよう～〇〇のひみつ教えます！～」

- ・パワーポイントを活用し、プレゼン形式で個々人が興味のある「ひみつ」を発表させた。
 - ・相手に興味をもってもらうための工夫を確認したうえで、どの工夫を取り入れるかは児童が選べるようにした。
 - ・基本的に学校で示してよい内容であればどんなテーマでもよいことにした。
- (1)それぞれが熱量をもって「ひみつ」を発表する姿、興味をもって聞く姿が見られた。
- (2)「ボカロ」や「サザエさん」、「宇宙」、「絶滅危惧種」など、多様な価値観が交わる空間ができた。
- 「友達の好きなものについて知ったり、知っているものについてさらに知ったりすることができて面白かった。家でも友達が紹介していたものを調べてみたい」という感想をもった児童も多かった。